

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071201133		
法人名	有限会社サライ		
事業所名	グループホームみんなの家		
所在地	福岡市西区能古324-1 (電話) 092-894-1305		
自己評価作成日	令和 2 年 12 月 24 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

能古島は海や森に恵まれた環境で自然に触れ合い、どこか懐かしいゆったりとした時間を感じる事が出来ます。能古島の環境を活かした行事、素麺流しや花見等を実施し、地域の方々と交流を深め行事への参加の呼びかけや地域行事にも参加しています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防で行事を開催することが出来なかったが、個別レクや行事自体を縮小して行い、感染予防対策の日々の中でも楽しんでいただけるよう支援を行っています。また、日々の生活の中でも本人の意志や自己決定を尊重し、思い思いに生活ができる環境作りに努め、理念である「笑顔のある暮らし」を取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 2 月 10 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

博多湾にある周囲12kmの自然豊かな島に位置する事業所は、眼前に広がる海と、四季折々の花が咲く公園があり、利用者の楽しみな外出先の一つとなっている。島内の地域住民との距離も近く、普段は事業所が家族や地域の人々の交流の場となっている。感染症流行の現在、感染予防の対策を講じる一方、家族や利用者の思いを汲み、利用者の様子を細かく書いた写真入りの便りを家族に出し、リモート面会の準備も進められている。また、職員は年間の研修計画に基づき、ケア方法の水準の向上を図ると共に、各利用者と家族に寄り添う支援を行っている。更に利用者や家族の要望に応じ、看取り介護も実施されている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は施設理念の「笑顔のある暮らし」を共有し日々の業務に取り組んでいる。理念を常に意識できるよう、事務室や玄関に掲示している	管理者と職員は理念の実践のために、利用者との個別対応で信頼関係を構築し、各利用者の生きがいや希望を共有している。また地域の人々との交流イベントやレクリエーションを通じて「笑顔ある暮らし」の具現化につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防対策の為地域との交流の支援は出来ていない。	自治会に加入しており、地域の清掃活動や廃品回収への協力を行っている。また毎月行われる事業所主催のイベントには、地域住民の参加や協力を得ている。更に近所の人からの野菜や花の届け物は絶えず、地域住民との良好な繋がりが伺える。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、地域中学生の福祉体験の受け入れや認知症サポーター等の研修に参加できていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防対策の為、施設での運営推進会議の開催は中止としている。ご家族、地域の代表の方々には報告書、議案書を郵送し意見や要望、質問等に取り組みサービス向上に活かしている。	隔月で運営推進会議を開催しており、会議は家族をはじめ、地域関係者の参加が多数ある。現在は議案書を送付し、各参加予定者から書面で意見を聞いている。感染症予防対策やレクリエーションの内容、面会方法の希望などが出され、迅速な検討とサービスの向上に向けた取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給の入居者についての支援を市役所担当者へケアプランを郵送している。また、受給の開始や廃止の場合においても協力体制を整えている。	行政には日常的に利用者サービスの報告や相談をしている。地域の公民館で行われる認知症サポーター養成研修では、様々な受講対象者を考慮した企画から実践までを行う等、行政と良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を定期的に行い、内部研修や施設内の身体拘束の状況の把握、身体拘束廃止の見直しを行っている。緊急性がある3要件を満たす場合は家族へ相談し同意を得て実施している。実施後は早急に身体拘束を外す様に担当者及び身体拘束委員会で検討している。	玄関や2階出入口は施錠しない時間をなるべく多く設けるように努めている。施錠中でも利用者の行動が抑制されないことがないよう、利用者の意向を理解し職員が付き添っている。職員全員参加型の身体拘束廃止委員会では、意識せず身体拘束を行っていないかの確認やマニュアルの見直しを行っている。	玄関の施錠について、日中はできるだけ開錠できるように取組を工夫して欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為外部研修に参加できない為、施設での内部研修を実施し情報を共有し意識を高めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防の為外部研修に参加できない為、施設での内部研修を実施し情報を共有し意識を高めている。また現在後見人制度を利用している入居者については後見人との連絡、調整、情報等を把握し支援している。	権利擁護に関する制度の説明は利用者契約時や必要に応じて説明が行われている。パンフレットやテキストは家族や関係者の目に止まりやすい玄関に準備されており、定期的に行われる年に一度の内部研修で職員は理解を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、御家族に解かり易く丁寧に説明を行い契約、解約に誤認、誤解が生じないように細心の注意を払っている。契約後も質問、要望等があればその都度話し理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の報告書に質問、要望の葉書を同封し集約した内容を合同会議時に報告し、反省や改善に向け施設運営やサービス向上に努めている。また、質問や要望等の取り組みについては後日、書面にて報告としている。	日常的に利用者の要望を聴き、出来る限り取り入れるようにしている。また家族からは活動内容やケア方法に関する要望、タブレット面会の要望などがあるが、事業所はこれらを速やかに検討し、家族の意見を反映できるよう努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議時や日々の業務の中で意見等を聞く機会を設け集約した内容を取締役又は、本社会議に報告し協力、依頼を行い反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加の要望があればシフトを考慮したり、毎月の希望休や有給については要望を可能な限りシフトに反映している。また職員の処遇改善については、毎月の給与に加算し又年2回個人評価表を活用し賞与に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	面接の際、学歴にかかわらず入社希望者のスキルや人柄に重点を置き採用している。また職員の能力が活かせるよう、できる限り管理職がサポートを行い能力を発揮できる環境づくりや勤務体制の構築に努めている。	事業所は採用選考で特定の理由で採用対象から外すことはない。また定期的に人事考課が行われており、職員の要望や資格取得の希望に対しては、勤務時間や研修参加への配慮を行い、誰もが安心して働ける職場作りを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外の研修を通じて、言葉使いや態度、行動について職員に人権教育を行い日々の支援の中で注意し合えるような環境づくりに努め業務に取り組んでいる。	毎年、外部の人権研修に参加しているが、感染症流行の現在は内部研修として、認知高齢者への人権をはじめ、虐待問題や接遇をテーマとした人権研修を行っている。その他、職員から職員間によるコミュニケーションと人権に関する課題が挙がり、職員全体で研修する機会を設けている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人の力量を把握し、研修の参加を促している。研修の資料は全職員が閲覧できるように回覧し、情報の共有を図っている。会議時にも内部研修を実施し、スキルアップへ繋がるよう努めている。今年はコロナの為外部研修への参加はできていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホーム情報交換会に定期的に参加し、勉強会や研修等を企画した内容をサービスに反映できるように取り組んでいる。コロナの為会議は休止となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安等があれば傾聴しゆっくりと時間を掛け信頼関係を築けるよう努力している。また、安心した生活が送れるように環境づくりにも配慮している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は面談を行い家族の困っている事、不安や要望を傾聴し安心した日々を送れるように努め、サービス導入後も生活の様子を報告し信頼できる関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族のおかれている状況を理解し各担当者とその時点で何が必要かを見極め可能な限り支援している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事と出来ない事を見極め出来る事（お盆拭き、洗濯物たたみ等）は手伝って頂き生活の一部として協力して頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為家族との面会は制限している。日常の様子を面会時に報告し毎月の生活状況報告書を郵送している。また、他科受診時家族と共に本人を支え信頼を築けるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会の際には、居室やリビングでゆっくりと交流の時間をもてるよう環境づくりに努めている。また、施設の行事には地域の方々を招待し社交的な場となるよう支援している。現在コロナの為面会や行事は中止しているが終息となれば再開していく。	契約時に利用者の馴染みの人や場について情報を聴取している。家族や知人の馴染みの関係が継続できるようにしているが、コロナ禍における現在は家族や知人への電話や年賀状を書く支援を行い、出来る限り、利用者の馴染みの関係の継続に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話が弾まず、一方的だったり会話が聞き取れず困っている時は、職員が間に入る事で会話を楽しめるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所のサービスを受けられる際には、当施設でのアセスメント、ケアプランの情報提供を行い今後のサービスがスムーズに実施できるよう連携を図り、御家族からの問い合わせ、相談があった場合も対応し支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者は認知症の症状があり意思疎通ができないケースがある。家族や主治医各関係者に意見をもらい、思いや意向の把握に努めている。本人の意向が確認できる場合は最優先としてサービスに反映している。	利用者ひとり一人の思いを叶えるために本人や家族から聞き取りを行っている。入浴や散歩、買い物など日常生活の中で、思いを実現できる工夫を行っている。意思疎通が困難な方の場合も家族等から行動傾向などを聞き取り、希望の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人、家族、各関係者から生活歴や本人ならではの暮らしの個性を活かせる情報を収集している。過去・現在の介護サービスの有無や成果についても把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活習慣を捉え心身状態が安定するよう暮らしの中に意欲を促し趣味が活かせるよう支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のケアカンファレンスと申し送り時のショートミーティングを活用し、日々変化する意向や症状に介護計画が沿うものになっているか確認し検討している。	快適な生活実現のために家族、本人、医師の意見や希望を聞き取り、介護計画に生かしている。6ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。計画の変更や生活状況について、毎月、家族に生活状況報告書を郵送して、本人の出来事や楽しいことなどを丁寧に郵送で知らせている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録とケアプラン実施表を基にケアカンファレンスを行い情報の共有と介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思いが変化するニーズに気づき、対策を生活全般で支援し施設介護サービスの特色を活用しながら多方面から取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナの為地域との、関わりが減ったが島内の方々から野菜や花を頂き豊かな暮らしを楽しみ、繋がりのある支援を維持している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の希望を取り入れかかりつけ医との信頼関係を構築できるように支援している。特変時は、かかりつけ医に相談し専門医受診の段取りを行い、適切な医療を受けられよう支援している。また、精神科や特種な疾患の方はかかりつけ医の継続としているが、安定しかかりつけ医の意志の下で往診医に移り、家族の負担も軽減できるようにしている。	かかりつけ医療受診を継続できるように、本人や家族から聞き取り、受診の合意を取ってる。家族と話し合い、通院介助の方法を話し合っている。離島にあるので、医療機関での待ち合わせなど、アクセスで工夫を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に医療的、心理的変化がみられる時には施設看護師や往診看護師へ報告し介護、看護が連携する支援を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には入院先の医師、看護師、MCWと情報を共有し入院生活と退院後の生活に安心が得られる支援を行っている。家族がいる方は状況を確認しながら本氏の支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化した場合には、かかりつけ医や往診医、家族、職員とカンファレンスを行い家族の意向を確認し入居者の方が最期まで人間らしく尊厳を保ち安らかな死期を迎えられるように、スタッフが力を合わせケアに努めている。入居の際には、「看取り介護指針」を提示し看取り介護を視野に入れた支援の説明を行い同意を得ている。	重度化や終末期のあり方について利用開始時だけでなく、折に触れて家族への説明を行っている。普段の生活の中で本人の意向を聞いたり、家族に急変時の意向を確認するなどし方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や緊急時の連絡対応方法についてマニュアルを作成している。避難訓練時にはAEDのキッドを使用した訓練、応急手当、初期対応の訓練を定期的に行い全職員が対応できるよう努めている。また新型コロナウイルス感染症についてのマニュアルも作成し感染予防方法や感染者が発生した際の対応、手順等を周知している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時や災害時の対応マニュアルを作成し年に2回日中、夜間帯を想定し車椅子の非常階段からの避難訓練も消防署の指導を受け実施している。また、全職員がAEDを的確に使用できるよう実践訓練を重ねている。新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議を中止しており、地域への公開はできていない。	災害対策のマニュアルを作成している。年に2回避難訓練を行っている。消防署の協力を得ている。夜間想定訓練も行っている。地域推進会議と合わせて行い、地域の方の参加協力をさせていただいている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本氏の尊重とプライバシーを損ねない言葉使いや対応を職員一同周知し、一人ひとりの人権を守れるように取り組んでいる。	職員研修を通して、利用者の一人ひとりのプライバシーを尊重している。月1回の職員合同会議で人権の尊重、言葉遣いなどについて、話し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し趣味、嗜好品を把握する事で入居者自ら選択、決定できるように働きかけている。また、生活の中で、表情や仕草を注意深く、汲み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく施設側の優先した生活ではなく、本氏ができる事を支援し残存機能や能力を活かした暮らしを心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフがその方にあった服装や整髪の身だしなみを支援している。定期的に訪問理美容を取り入れ、清潔感を保っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の保有能力に合わせて食べやすく刻んだり、ミキサーなど提供の仕方を変えている。また、嚥下状態の悪い方へは水分にトロミをつけるなど工夫している。準備や配膳は現在難しいが、片付けのお盆拭きなどを協力してもらっている。	食事が楽しいものになるよう「ちらし寿司」など、利用者の希望や好きなものを取り入れるように行事食などで工夫をしている。利用者の状況に合わせて、調理補助やかたづけなどの協力を得ている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにて栄養バランスの管理、摂取状態に応じた形態、水分補給の支援を行っている。毎日個々の食事摂取量(水分摂取量)を記録し栄養状態を確認している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い入居者の口腔内の状況を把握し支援している。必要性がある方は受診や訪問歯科にて清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や記録を確認する事で個々の排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っている。また、便座での保持ができる方はトイレに誘導する事で、失敗やおむつ使用を減らすよう努めている。	利用者の排泄状況を把握し、時間誘導などを行っている。習慣やパターンを知り、トイレ誘導を行っている。おむつの使用頻度を減らす工夫が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時に果物、芋、乳製品を取り入れ工夫している。排便困難な入居者は主治医に相談し緩下剤で排便コントロールしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴可能となっているが、入居者の状況に合わせて希望に沿えるように配慮しつつ、拒みがみられる場合は、声掛けや誘導方法を工夫し無理に勧める事はしないように努めている。	入浴は1日おきの回数であるが、希望により毎日、入浴は可能である。利用者の状況に合わせて、入浴に拒否的な利用者には誘導や声掛けをしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況を踏まえ午前、午後居室での臥床や息抜きができる様体調への配慮を行っている。また、安眠の対応として照明の明暗や温度調整を行い、精神的に落ち着けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の介護記録に薬情を綴じ副作用、用法、用量について確認できるようにしている。また、服薬可能な形態（粉散や錠剤）で服用できるようトロミをつけるなど支援している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の残存能力を活かし役割を持った生活が送れるよう支援している。季節行事や誕生日会を企画している。コロナの為家族の参加案内は控えている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為外出行事を控えているが、天気の良い日は施設近辺を短時間散歩や車椅子の方にも状況を確認し外気浴も取り入れている。	外出支援で利用者の希望により、毎日散歩は可能である。外食やドライブも年2、3回行われているが。昨年は島内のアイランドパークに交代で出かけた。コスモス見学が行われた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望購入品や日常生活で必要であれば説明の下スタッフが代行で購入としている。また、他科受診時に購入物があれば一緒に付き添っている。その際の領収書は出納帳に記入し保管している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等ができる方はおられないが、今後新しい入居者の方が要望時は対応する。家族へは、生活面が分かる生活状況報告書を毎月郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは安全に配慮したバリアフリーとし快適に生活ができるようにしている。四季や行事が分かるように、節句の置き物を飾り生活感や季節感を取り入れている。季節によっては光が強く、不快感を感じないようにカーテンを閉め配慮している。	食堂や居間は感染防止のために、間隔をあけている。居間の周辺には、利用者の編み物や折紙などの作品が飾られている。家庭的な雰囲気が出されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りが必要な方は、安全面を考慮しリビングで過ごして頂き居室で休まれる際は、安全に配慮したマットセンサーや人感センサーを設置している。また、ご自分の席とは別にソファを設置して自由に座れるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心できる環境になるように、本人の状況に応じて使い慣れた物や好みの物を設置、工夫し居心地の良い暮らしを支援している。	居室には仏壇やふみ机、写真などなじみのものがあり、利用者が日記などを書いて、落ち着いた生活を送られている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下、トイレ等日常動作のスペースには手すりを設置し、居室、トイレには解りやすいようにネームパネルを貼り安全に生活が送れるよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の「笑顔のある暮らし」を事務所や廊下に掲示している。業務に意識し理念に基づいた行動に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域の方の参加を呼び掛け交流を深めている。地域の行事にも参加し地域との関わりを大切にしている。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策の為行事が開催されていない。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策の為、運営推進会議、福祉体験の受け入れや認知症サポート等の研修に参加できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を行い、施設の様子を報告していたが、新型コロナウイルス感染症予防対策の為開催が出来ていない。また家族、地域代表者、市、包括には報告書や議案書を郵送し意見や要望、質問等に取り組みサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給の入居者についての支援を市役所担当者へケアプランを郵送している。また、受給の開始や廃止の場合においても協力体制を整えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を定期的に行い内部研修や施設内の身体拘束の状況の把握、身体拘束廃止の見直しを行っている。緊急性がある3要件を満たす場合は家族へ相談し同意を得て実施している。実施後は早急に身体拘束を取りやめられないか担当者及び身体拘束委員会で検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為外部研修に参加できない為、施設内での内部研修を実施し情報を共有し意識を高めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染症予防の為外部研修に参加できない為、施設内での内部研修を実施し情報を共有し意識を高めている。また現在後見人制度を利用している入居者については後見人との連絡、調整、情報等を把握し支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際には本人、家族に解りやすいように説明し、誤認や誤解が生じないように注意を払っている。本人、家族の要望がある場合はそれを汲み取りサービスとして提供するように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の報告書に質問、要望の葉書を同封し集約を合同会議時に報告、周知し反省や改善に向け施設運営やサービス向上に努めている。また、質問や要望等の取り組みについては後日、書面にて報告としている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社会議で話し合った内容を合同会議時に議題として話し合い、職員の意見や提案、協力等を依頼し運営に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や研修参加の要望があれば、シフトを考慮している。毎月の希望休や有給の希望をシフトに反映させている。賞与の見直しには個人評価表を活用し年2回行い、処遇改善について毎月給与に反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用面接は、スキルや人柄に重点を置きまた職員の能力を活かせるように、できる限り管理職がサポートを行い能力が発揮できる環境づくりや勤務体制に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権を尊重する為に、施設内外の研修を通じて言葉遣い、態度、行動について職員等の人権教育を行い入居者、家族、職員同士に対する尊重を考慮し日々の業務に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や状況を判断し研修への参加を促している。研修資料は職員が閲覧できるように回覧し、情報の共有を図っている。合同会議の時内部研修を兼ねた勉強会を実施し学びやすい環境を考慮している。今年はコロナの為外部研修への参加はできていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホームの情報交換会に定期的に参加し勉強会や研修会等を企画した内容を情報交換に取り組んでいる。コロナの為会議は休止となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や思いを傾聴し、ゆっくりと時間をかけ信頼関係を築いている。また、安心した生活が送れるように、話しやすい雰囲気や環境づくりに心掛けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は面談を行い、家族の困っている事、不安や要望を傾聴し安心した日々を送れるように努め、サービス導入後も生活の様子を報告し信頼できる関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族のおかれている状況を理解し、各担当者と早急に必要なサービスを見極め、支援している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活歴や経験、情報を共有し生活する中で出来る事(洗濯物たたみ、皿洗い、野菜の皮むき)を手伝って頂きお互い支え合える関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為家族との面会は制限している。日常の様子を面会時に報告し毎月の生活状況報告書を郵送している。また、他科受診時家族と共に本人を支え信頼を築けるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会の際には、居室でゆっくりと談話の時間を過ごせるよう支援している。また、地域の行事の参加や施設行事には、地域の代表者を招待し社会的交流の場となるよう支援している。現在コロナの為面会や行事は中止しているが終息となれば再開していく。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が生活の中で保有能力を活かし洗濯物たたみ、皿洗い、居室や廊下の掃除等を行い支え合う場面がみられている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所のサービスを受けられる際には、当施設でのアセスメント、ケアプランや医療情報の提供を行い今後のサービスが、スムーズに実施できる様に連携を図っている。必要に応じて本人、家族をフォローし相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族、本人の希望や意向を聞きアセスメントを行っている。アセスメント、モニタリングを有効活用し本人、家族の意向や希望を聞き取り介護計画に反映している。本人の意向や希望の確認が困難な場合には、職員や家族周囲関係者へ聞き取り焦点を合わせてその人らしさに配慮している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には本人、家族及び各関係者へ聞き取りを行うと共に介護計画書等の資料の情報収集する事で、これまでの暮らしを把握している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を生かした（編み物、絵画手紙）一日の過ごし方を支援し健康維持に努め訪問診療との連携で支援している。レクリエーションを毎日実施し（クイズ、体操）参加されている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスに加え入居者の状況の変化に応じてモニタリングを実施しケアプランに反映させ、介護計画の見直しを行っている。月一回生活状況報告書を家族、後見人に郵送し情報を発信している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子（排泄、食事、バイタル等）を介護日誌に記入し職員間で情報を共有している。毎月家族へ生活状況報告書を郵送し、日頃の様子を報告している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝の申し送り時、報告、連絡、相談を行いニーズが発生した場合早急にカンファレンスを開き解決に向けた取り組みを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナの為地域との、関わりが減ったが島内の方々から野菜や花を頂き、豊かな暮らしを楽しみ、繋がりのある支援を維持している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係が維持出来るようにサポートを行っている。また、本氏の安定した医療が継続できるように、かかりつけ医から往診医への移行の説明があれば情報の支援をしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者に医療的、心理的変化がみられる時には施設看護師が往診看護師へ報告し介護、看護が連携する支援を行っている。往診医が24H対応にて看護師に相談ができる。また、島内外の看護師が勤務しているので、入居者の変化がみられた時は、早急な対応ができる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には入院先の医師、看護師、MCWと情報を共有し入院生活と退院後の生活に安心が得られる支援を行っている。家族がいる方は状況を確認しながら本氏の支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重症化した場合には、かかりつけ医や往診医、家族、職員とカンファレンスを行い家族の意向を確認し入居者の方が最期まで人間らしく尊厳を保ち安らかな死期を迎えられるように、スタッフで力を合わせケアに努めている。入居の際には、「看取り介護指針」を提示し看取り介護を視野に入れた支援の説明を行い同意を得ている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や緊急時の連絡対応方法についてマニュアルを作成している。避難訓練時にはAEDのキッドを使用した訓練、応急手当、初期対応の訓練を定期的に行い全職員が対応できるよう努めている。また新型コロナウイルス感染症についてのマニュアルも作成し感染予防方法や感染者が発生した際の対応、手順等を周知している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時や災害時の対応マニュアルを作成している。年2回日中、夜間帯を想定し避難訓練を消防署の指導を受けて定期的の実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。職員会議時も職員、入居者等への言葉使いを議題として話し合い人権を守れるよう取り組んでいる。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出や買い物等個々の要望を日々の生活の中から表情や仕草を注意深く、汲み取り自身の意思で決定できるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースを汲み取りそれに合わせた生活が出来るように支援している。意思決定が出来る方は、できる限り本氏の要望を活かした暮らしを心掛けている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重し個性を大切にした支援を行っている。また訪問理美容を隔月で依頼している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の保有能力に応じて調理補助をお願いしている。また、食器洗い、洗濯物たたみ等も手伝って頂いている。コロナの為施設行事は出来ないが、節句や元旦には入居者の方々が喜んで頂けるような料理を作り提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスにて、栄養士がバランスを考えた献立に沿った調理を行っている。また、入居者それぞれの状況に応じ、形態や摂取量、水分量の確認としている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各入居者の口腔ケアの状況を把握し介助により支援を行っている。また、定期的な受診が必要な方は訪問歯科や受診にお連れし、清潔保持のケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導を行い入居者の排泄パターンや習慣を把握しトイレで排泄し失敗やおむつの使用を減らしている。て頂く支援を行っている。ポータブルトイレが必要な方は、居室に設置し安心して排泄できるよう支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食物繊維や乳製品を取って頂く為食事やおやつに提供している。体操や散歩にお連れし、便秘の予防に繋げている。排便困難な入居者は主治医の下で緩下剤を使用し個々にあった支援を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴可能となっているが、入居者の状況に合わせ希望に沿えるように配慮しつつ、拒みがみられる場合は、声掛けや誘導方法を工夫し無理に勧める事はしないように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の日中の状況を把握する事で午睡やレクリエーション、散歩等にお誘いし、安心して休息できる環境づくりに努めている。また、安眠して頂けるよう照明や室温に配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を詳細が職員に分かりやすいように、各個人の介護記録に処方説明書を貼付し、確認できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や誕生日会等を企画し日頃と違った料理を作り、ノンアルコールをだし気分転換の支援を行っている。その都度記念写真を撮り廊下に貼り出し見て頂いている。家族へは、生活面が分かる生活状況報告書を毎月郵送している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為外出行事を控えているが、天気の良い日は施設近辺を短時間散歩や車椅子の方にも状況を確認し外気浴も取り入れている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が必要とする物品等があれば意思に添った了解の下スタッフが代行して買い物を行っている。その際領収書は、出納帳に記入し保管している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望がある時は、時間を考慮し電話して頂いている。また、手紙のやり取りが継続出来るよう支援している。家族へは生活面が分かるよう生活状況報告書を毎月郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、バリアフリーで居室のドアに名札を設置し、認知しやすいよう配慮している。また、行事に関しては雛人形やクリスマスツリー等季節を感じ取れるように居心地の良い環境の提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し入居者様同士で過ごせる場所を提供している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や思い出の写真を飾り本人が安心して馴染みやすく、居心地良く過ごせるように支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、廊下やトイレ内に手すりを設置している。また、各居室やトイレにネームプレートを設置し、認知しやすいよう配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		